



# ドックベスト治療ガイド



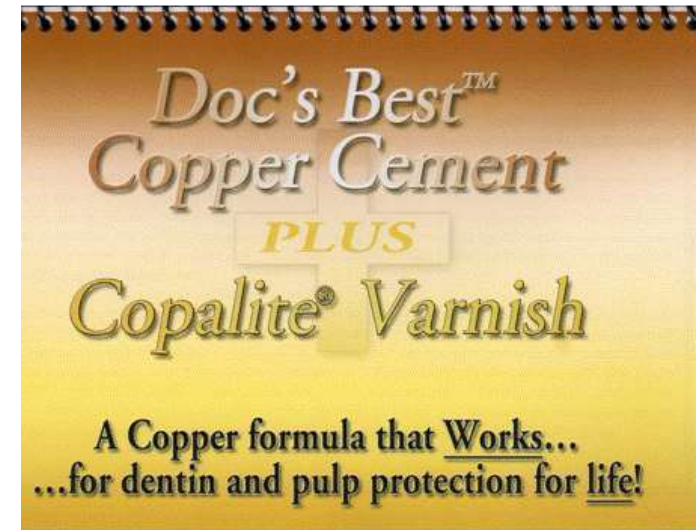
## ドックベスト治療ガイド メニュー

1. ドックベストセメントについて
2. 事前に準備するもの
3. 処置例(通常使用例)
4. 処置例(予防的応用例)
5. 処置例(根管治療および根充)

## 1. ドックベストセメントについて

ドックベストセメントとは？

- ◆銅ペーストを応用したカリエス治療
- ◆銅（銅）の毒性を抑え殺菌効果を最大限に高めるため、アメリカ人科学者 Dr. Timothy W. Fraserにより銅ペーストとCopaliteを組み合わせた治療方法が開発された。虫歯治療で削らず塗り込むだけで改善効果がある。子供から妊婦、老人まで全世代に対し治療の痛みの軽減と、治療回数の軽減を可能とする画期的な治療方法です。



ドックベストセメントの効果・原理

- ◆鉄イオン(Fe)と銅イオン(Cu)のコンビネーションによる殺菌力
- ◆FeイオンとCuイオンの電位差がバイオフィルムの生成を阻害

## 2. 事前準備

### 【薬剤】

- ・Doc's Best Cement (Red/White)
- ・Copalite Vernish



### 【器材】

- ・ガラス練板
  - ・スパチュラ
  - ・マイクロブラシ
  - ・マイクロシリンジ
  - ・タンパク分解殺菌水 (POIC Water)
- ※殺菌するものであれば基本何でも可。



### 3. 処置例(通常使用例)



処置	処置方法／注意点	使用するもの
1. う窩の洗浄殺菌	う窩をたんぱく質分解水をマイクロシリンジで吹き付けて洗浄・殺菌 ※40℃くらいに温めると刺激が少ない ※激しい痛み・刺激を絶対に与えない	推奨:タンパク分解殺菌水 (POIC Water)
2. う窩の処置準備	ドックベストセメントとコーパライトをダッペンディッシュで混合しマイクロブラシで混ぜ合わせる。 ※揮発性が高いためかなりゆるめの混合で良い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドックベストセメント(赤or白)</li> <li>・Copalite Vernish</li> <li>・ダッペンディッシュ</li> <li>・マイクロブラシ</li> </ul>
3. う窩の処置	2の混合液をマイクロブラシでう窩にやさしく塗り込む。 象牙細管にしみ込んで行くことを確認する。 この作業を象牙細管にこれ以上入らない状態まで繰り返す。(目安5～7回くらい) ※激しい痛み・刺激を絶対に与えない 激痛を発した時点で処置が困難になることが多い	



処置	処置方法／注意点	使用するもの
4. ドックベストの練和	<p>適量をガラス練板上でドックベストの粉末と液を練和</p> <p>基本は糸を引く硬さに練るが、う窩が湿潤の場合は柔らかめに練る(う窩に付かない)</p> <p>※すぐに固まるので室温が高い場合はガラス練板を冷やしてから処置しても良い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガラス練版</li> <li>・スパチュラー</li> <li>・ドックベスト(赤or白)</li> </ul>
5. 充填	<p>ガラス練板上で練ったドックベストをマイクロブラシを使用してう窩に塗布あるいは充填</p> <p>ドックベストを完全に硬化させることが大切</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイクロブラシ</li> </ul>
6. 仮封あるいは最終修復充填	<p>先に充填したドックベストが完全硬化後に仮封するのが成功のポイント</p> <p>理由はドックベストの硬化前に仮封剤(ガラスアイオノマー)や最終修復材で圧迫すると象牙細管を刺激してしまう</p> <p>結果的に歯髄炎を起こさせてしまう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮封材 (ガラスアイオノマーセメント)</li> <li>・最終修復材 (グラディア ダイレクト)</li> </ul>

## 4. 処置例(予防的応用例)



処置	処置方法／注意点	使用するもの
1. う窩および歯面の洗淨殺菌	う窩および歯面をたんぱく質分解水をマイクロシリンジで吹き付けて洗淨・殺菌 ※40℃くらいに温めると刺激が少ない ※激しい痛み・刺激を絶対に与えない	推奨:タンパク分解殺菌水 (POIC Water)
2. う窩および歯面の処置準備	ドックベストセメントとコーパライトをダッペンディッシュで混合しマイクロブラシで混ぜ合わせる。 ※揮発性が高いためかなりゆるめの混合が良い	・ドックベストセメント(赤or白) ・Copalite Vernish ・ダッペンディッシュ ・マイクロブラシ
3. う窩および歯面の処置	2の混合液をマイクロブラシでう窩にやさしく塗り込む。 象牙細管へは染込んでいく様子がわかるが、エネメル質では確認が難しい この作業を象牙細管にこれ以上入らない状態まで繰り返す。(目安5～7回くらい) ※激しい痛み・刺激を絶対に与えない ※塗布のタイミングや回数はDiagno-dento(カリエス測定器)で判断	・Diagno-dento (カリエス測定器)